



明
年
懷
中
日
記

早稲田大学図書館
文書27
A 111



三才圖會

拜方四	日	一	月	一	己丑	木曜
天氣	<p>元旦不出門 不接米 頭痛 不爽快</p>					
寒暖						
天氣	日	二	月	一	庚寅	金曜
寒暖	<p>欠朝 頭痛 夜十一時 寢 少</p>					

一月

三

月 一

(の月十〇大)
(節中二同寒)

(入節二曆〇小)
(るに月十陰寒)

理料 藻 詞 事 行

宮中にては一日に四方拜〇三日に元始祭〇九日に新年宴會を行はせらる〇民間にても新年の祝儀とて、屠蘇雜糞餅を祝ひ、互に年禮に廻るなり〇又思ひく、新年宴會をも催す〇小寒の日(上旬)即ち寒の入りなり〇政事始は四日〇御講書始は七日〇陸軍始は八日〇海軍始は十五日〇御歌會始は不定なれど大方十八日なり〇三十日は孝明天皇御祭日とす〇十六日やぶ入閣覽詣

三條 實美

明らけき年の始めの今日とては民の心も長閑なるらん
絃服華妝着處逢。六街燈火鬧兒童。長衫我亦何爲者。

郝 隆

也在遊人笑語中。
年玉はどれから來ても吉方かな
長松が親の名て來る御慶かな

可 野坡

鯛〇ひらめ〇さより〇甘鯛〇鯉〇鮒〇ぶり〇鮫鱈〇蟹
〇たら〇芝ふび〇烏賊〇章魚〇牡蠣〇鴨〇鴈〇蜆〇れ
ぎ〇大根〇菜〇蜜柑〇茗荷たけ〇鳥獸肉類

(年三平正)す死戦に嘸條四行正楠

	日	五	月	一	癸巳	月曜
一月	天氣	鳥帽 物紙 銀 日本橋 六面 多 少				
	寒暖					
	日	六	月	一	甲午	火曜
五月	天氣	遠近 視力 大磯 行態 身休 息 羽 毛				
	寒暖					

(年三保建)す卒政時條北

(年五)るは行を祭始元てめ始

	祭始元	日	三	月	一	辛卯	土曜
一月	天氣						
	寒暖						
	日	四	月	一	壬辰	日曜	
	天氣						
	寒暖						

(年十)るらせ發を詔の減輕租地

一月

四

(年三應慶)ふ給し祚踐皇天上今

一月

	日 九 月 一	丁酉 金曜
天氣	夜雨一時 不降 雨	朝 西便雨 梗軟 平
寒暖		

七

	日 十 月 一	戊戌 土曜
天氣	夜雨 下 雨	朝一回通便見 代 下 今 井 其 心
寒暖		

(年八廿)す領占を城平蓋軍清征

(年二德正)ず薨政義利足

一月

	日 七 月 一	乙未 水曜
天氣	九竹園、小丸	雨眼視力正、 定右腕難軟 便通如免灸ハ
寒暖		

六

	日 八 月 一	丙申 木曜
天氣	硬牛軟	熊三 便通如免灸ハ
寒暖		

(年八)む定を齡學の徒生學小

(年一卅)る成閣内藤伊

日一十月一

巳亥 日曜

一月

天氣

此日竹子雪降
物立
揚子陽吹飛大
城↑

寒暖

日二十月一

庚子 日曜

八月

天氣

於進為氏
未持本之
地
徳入不用
少
未空兆

寒暖

(年十三)御崩后太皇照英

(年九保享)寸歿蝶一英

日三十月一

辛丑 火曜

一月

寒暖

小磯
徳
左在
直
視
腹
咳
乳

天氣

日四十月一

壬寅 水曜

九月

天氣

今
店
準
夕
ヨ

寒暖

(年四十)く置を兵憲てめ始

(年元應慶)む止を兵の長征府幕

	日七十月一	乙巳 土曜
一月	天氣 女 大便 寒氣 粉 水 一面 生葉	寒暖 針 雨

	日八十月一	丙午 日曜
一月	天氣 山 雨 視力 足力 驗	寒暖

(年元延萬)す遣派に國米を節使てめ始府幕

(年元)服元御皇天上今

	日五十月一	癸卯 木曜
一月	天氣 大 晩 正午 大便 朝 粉 水 一面	寒暖

	日六十月一	甲辰 金曜
一月	天氣 下 午後 夜 石 早 為 下 午後 夜 八時 一面 通利	寒暖

(年二應承)る成道水の川玉

(年八廿)る來一タスヲ使和購國清

一月

日一十二月一		巳 水 酉 曜
天氣	<p>手前十位者車 梅宅 如見梅子とあり 侍事由是迄 杉と海軍のあり ナレ久人のあり</p>	
寒暖		

日二十二月一

一三

日二十二月一		庚 木 戌 曜
天氣	<p>山田梅子とあり 晩方より月高の業 葉のありあり 梅宅のありあり 末のありあり</p>	
寒暖		

(年六十長慶)す卒久義津島

(年一卅)く置を府帥元てめ始

一月

日九十月一		丁 月 未 曜
天氣	<p>梅宅のありあり 杉と海軍のありあり 梅宅のありあり 梅宅のありあり</p>	
寒暖		

日十二月一

一三

日十二月一		戊 火 申 曜
天氣	<p>梅宅のありあり 梅宅のありあり 梅宅のありあり 梅宅のありあり</p>	
寒暖		

(年二卅)す麗伯舟海勝

(年四十祿元)す寂梨園阿冲契

一月

日五十二月一		癸丑 日曜
天氣	大八有光七友 行十略 初平川天神川 有文三三三 運	
寒暖		

一五

日六十二月一		甲寅 月曜
天氣	美一井七 畫新井 有文三三三 運	
寒暖		

(年九十)く置に幌札を廳道海北

(年二)す請奏を還奉籍藩

一月

日三十二月一		辛亥 金曜
天氣	山子後 娘山 一井二川 運	
寒暖		

一四

日四十二月一		壬子 土曜
天氣		
寒暖		

(年八廿)去薨下殿王親仁熾宮川栖有

(年二)す布公を例條版出てめ始

日七十二月一		乙卯 火曜
天氣	寅以不快 香子婦林食 芝邊乳和合之命 三階之不以三階 三階料理心忠 三階	
寒暖		
日八十二月一		丙辰 水曜
天氣	梅子大破出行 干均知合入脚 器均多石是石	
寒暖		

一月

一六

(年五平寛)す寂照遍正僧

(年五廿)す布公を令戒豫

日九十二月一		丁巳 木曜
天氣	山梅静来 午後三時 新入堂 御金起入 福屋吃 お八公三平九 山石井山西	
寒暖		
日十三月一		戊午 金曜
祭大孝 皇明		
天氣	新在者見例	
寒暖		

一月

一七

(年十三)ふ行を祭年式御年卅皇天明孝

一月三十日

土曜 己未

天氣

寒暖

Handwritten notes in cursive script, likely describing weather or local events.

一月

下もえの氣しきを

けすや春の雪

李立

一八

二月

二月

(節中正○雨)の月同水

(るに月曆○立)入節正陰春

料理

鳥貝○みる貝○芹○蔕の臺○甲わり菜○土筆○よめ菜
○防風○芽紫蘇○鶯菜○ちさ○わかめ

藻詞

立かへり又きさらきの空さえて天きる雪に霞む山の端
城雪初消薺菜生。角門深巷少人行。柳梢聽得黃鸝語。
此是春來第一聲。
梅一輪くつゝのあたゝかさ 雪中庵嵐雪
朝紅や水うつくしき初かすみ 伊丹鬼貫

行事

立春の日(上旬)より始めて春なり、此日を寒明けと稱す
○冬の節盡きて立春に入る前夜を節分とす○十一日
紀元節として神武天皇即位紀念日の大節なり○諸處の梅
花春風に綻び初む○初午の日諸所稻荷祭○月末より東
京十軒店雛市立つ

爲兼卿

一九

(年四)く設を線電に底海の間本日那支

二月

	日	三	月	二	壬戌	火曜
天氣	大雪あり 大雪あり 大雪あり 大雪あり					
寒暖	大雪あり 大雪あり 大雪あり 大雪あり					

二二

	日	四	月	二	癸亥	水曜
天氣	大雪あり 大雪あり 大雪あり 大雪あり					
寒暖	大雪あり 大雪あり 大雪あり 大雪あり					

(年六十祿元)ふ賜を死に等雄良石大

(年二十三)す通開話電間阪大京東

二月

	日	一	月	二	庚申	日曜
天氣	大雪あり 大雪あり 大雪あり 大雪あり					
寒暖	大雪あり 大雪あり 大雪あり 大雪あり					

	日	二	月	二	辛酉	日曜
天氣	大雪あり 大雪あり 大雪あり 大雪あり					
寒暖	大雪あり 大雪あり 大雪あり 大雪あり					

110

(年七廿)く開に里巴を議會生衛國列

(年六)るらせ發を令の禁殿讐復

二月

	日	七	月	二	丙寅	土曜
天氣	川村ら修治					
寒暖	和らぐ多し					

	日	八	月	二	丁卯	日曜
天氣	和らぐ多し					
寒暖	和らぐ多し					

(年十三)す葬奉を后太皇照英

二三

(年八廿)す沈撃を隻二艇清隊艇雷水我

二月

	日	五	月	二	甲子	木曜
天氣	和らぐ多し					
寒暖	和らぐ多し					

	日	六	月	二	乙丑	金曜
天氣	和らぐ多し					
寒暖	和らぐ多し					

(年一十)む定を草絨の囊封書國

二三

(年二廿)るさ殺禮有森爵子

節元紀	日 一 十 月 二	庚午 水曜
天氣	右子伸 午殺 夕今入 何	
寒暖		
節元紀	日 二 十 月 二	辛未 木曜
天氣	三菱 定加 其和 八	
寒暖		

二月

二五

(年三卅)く開に京東を會親懇大清日

(年八廿)寸死戰に衛海威將少寺大

	日 九 月 二	戊辰 日曜
天氣	大樹 常 柳	
寒暖		
	日 十 月 二	己巳 火曜
天氣	牛 柳 野 便 新 何 毛	
寒暖		

二月

二四

(年八廿)寸領占を州海寧軍清征

(年十)ぐ響に摩薩を兵盛隆郡西

二月

日 五 十 月 二		甲 日 戌 曜
天氣	大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ 大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ	
寒暖	大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ	

日 六 十 月 二 乙 月
亥 曜

二七

天氣	大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ	
寒暖	大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ	

(年元久建)三十七年す寂行西僧

(年八廿)す殺自昌汝丁

二月

日 三 十 月 二		壬 金 申 曜
天氣	大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ	
寒暖	大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ	

日 四 十 月 二 癸 土
酉 曜

二六

天氣	大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ	
寒暖	大城ノ人ノ心ヲ 山ノ木ノ葉ヲ 小ノ木ノ葉ヲ 夕ノ木ノ葉ヲ	

(年二廿)るら贈を位二正に禮有森

(年八廿)す決可を費事軍の圓億一院議衆

二月

日三十二月二		壬午 月曜
天氣	四十夜 午後第一知 午後第二知 午後第三知 午後第四知	
寒暖	冷	

日四十二月二		癸未 火曜
天氣	晴 晴 晴 晴 晴	
寒暖	冷	

(年三弘元)御崩皇天酬醒後

三十一

(年一卅)す贈追を位一正に鷹清氣和

二月

日一十二月二		庚辰 土曜
天氣	山田来 午後運 常盤橋 梅林 土下 鳴	
寒暖	冷	

日二十二月二		辛巳 日曜
天氣	朝 大ハ 雲 甚	
寒暖	冷	

(年九廿)るさは遣に式位即帝露を將大縣山

三〇

征清軍平山を占領す(廿八年)

三月

		日	一	月	三	戊子	日曜
天氣	天氣不佳雨引						
寒暖							
		日	二	月	三	己丑	日曜
天氣	雨						
寒暖							

武官の禮服を定む(四年)

三五

三月

三月

(節中二〇春)
(の月同分)

(るに月曆〇啓)
(入節二陰整)

料理

若鮎〇さば〇鱒〇いひ章魚〇かれひ〇かながしら〇きす〇こち〇鱒〇松魚〇なまづ〇蛤〇あさり〇蝶螺〇赤貝〇雉〇山鳥〇春菊〇山椒芽〇三葉芹〇花柚〇生椎茸〇鹿角菜

藻詞

いさら水かつく花の散うきて梅か香寒し小田の中道
吟人瘦倚曲欄干。酒醒香鎖午夢殘。燕子不來春社去。
一簾疎雨杏花寒。
おもふさま遊ふに梅は散らば散れ
池に驚なしかな書ならふ柳かけ

井上文雄
惟然坊
山口素堂

行事

三日雛祭なり〇中旬より彼岸に入る〇彼岸の中日を春季皇靈祭とす〇民間にても佛事を營み、六阿彌陀詣などする者多し、秋の彼岸も同じ〇根岸鶯谷等にて鶯合あり〇彼岸櫻開く〇汐汗狩は下旬より佳なり

三四

(年十)く置を院査檢計會て始

三月

	日	五	月	三	壬辰	木曜
天氣						
寒暖						

日 六 月 三 癸巳 金曜

三七

天氣						
寒暖						

(年八廿)す領占を口營軍清征

(年二卅)るらせ布公を法權作著

三月

	日	三	月	三	庚寅	火曜
天氣						
寒暖						

日 四 月 三 辛卯 水曜

三六

天氣						
寒暖						

(年八廿)す領占を莊牛軍一第清征

(年七廿)ふ行を典祝の年五廿婚大

三月

		日 九 月 三	丙 月 申 曜
天氣	お梅の子		不気味
寒暖	汗多		

三九

		日 十 月 三	丁 火 酉 曜
天氣	梅子汁		不気味
寒暖			

(年五廿帝仁垂)つ建に勢伊を祠の神大照天

(年六)も定を節元紀てめ始

三月

		日 七 月 三	甲 土 午 曜
天氣			
寒暖			

三八

		日 八 月 三	乙 日 未 曜
天氣	遊如		
寒暖	城垣		

(年二寶大)つ頰に下天を量度てめ始

(年七)す許をる入に校學我の人外

三
月

		日七十月三	甲辰	火曜
天氣				
寒暖				

		日八十月三	乙巳	水曜
--	--	-------	----	----

四
三

天氣				
寒暖				

(年十三)ふ行に京東を式拜遙祭年卅皇天明孝

(年七)ぐ擧を兵平新藤江

三
月

		日五十月三	壬寅	日曜
天氣				
寒暖				

		日六十月三	癸卯	月曜
--	--	-------	----	----

四
二

天氣				
寒暖				

(年八廿)るらぜ任に督總大清征宮松小

(年十三)りあ布公律法正改例條紙聞新

三
月

日 五 十 二 月 三		壬子	水曜
天氣			
寒暖			

四
七

日 六 十 二 月 三		癸丑	木曜
天氣			
寒暖			

(年十三)るらせ布發を法幣貨

(年一卅)戸餘千一燒延火大郷本京東

三
月

日 三 十 二 月 三		庚戌	日曜
天氣			
寒暖			

四
六

日 四 十 二 月 三		辛亥	火曜
天氣			
寒暖			

(年三卅)く舉を式通開道水市戸神

(年九廿)るは賜を盃銀に員議院兩

日九十二月三

丙辰 日曜

三月

天氣

寒暖

日十三月三

天氣

寒暖

四九

(年八廿)る成約定戰休清日

(年一卅)る取を灣連大順旅國露

日七十二月三

甲寅 金曜

三月

天氣

日八十二月三

乙卯 土曜

四八

寒暖

(年七廿)るさ殺てに海上均玉金

以下
12枚
白紙

(年三祿永)る破に間狭桶を元義川今長信

五月

日 九 十 月 五		丁未 火曜
天氣	<p>午初梅雨</p>	
寒暖		

七七

日 十 二 月 五		戊申 水曜
天氣	<p>入梅雨 午後止 午後雨</p>	
寒暖		

(年十三)す行發を圓萬百二債公理整

(年十二)す布公を例條道鐵設私

五月

日 七 十 月 五		乙巳 日曜
天氣		
寒氣		

七六

日 八 十 月 五		丙午 日曜
天氣	<p>晴</p>	
寒暖		

(年二)す定平館園り降賊の廓稜五

